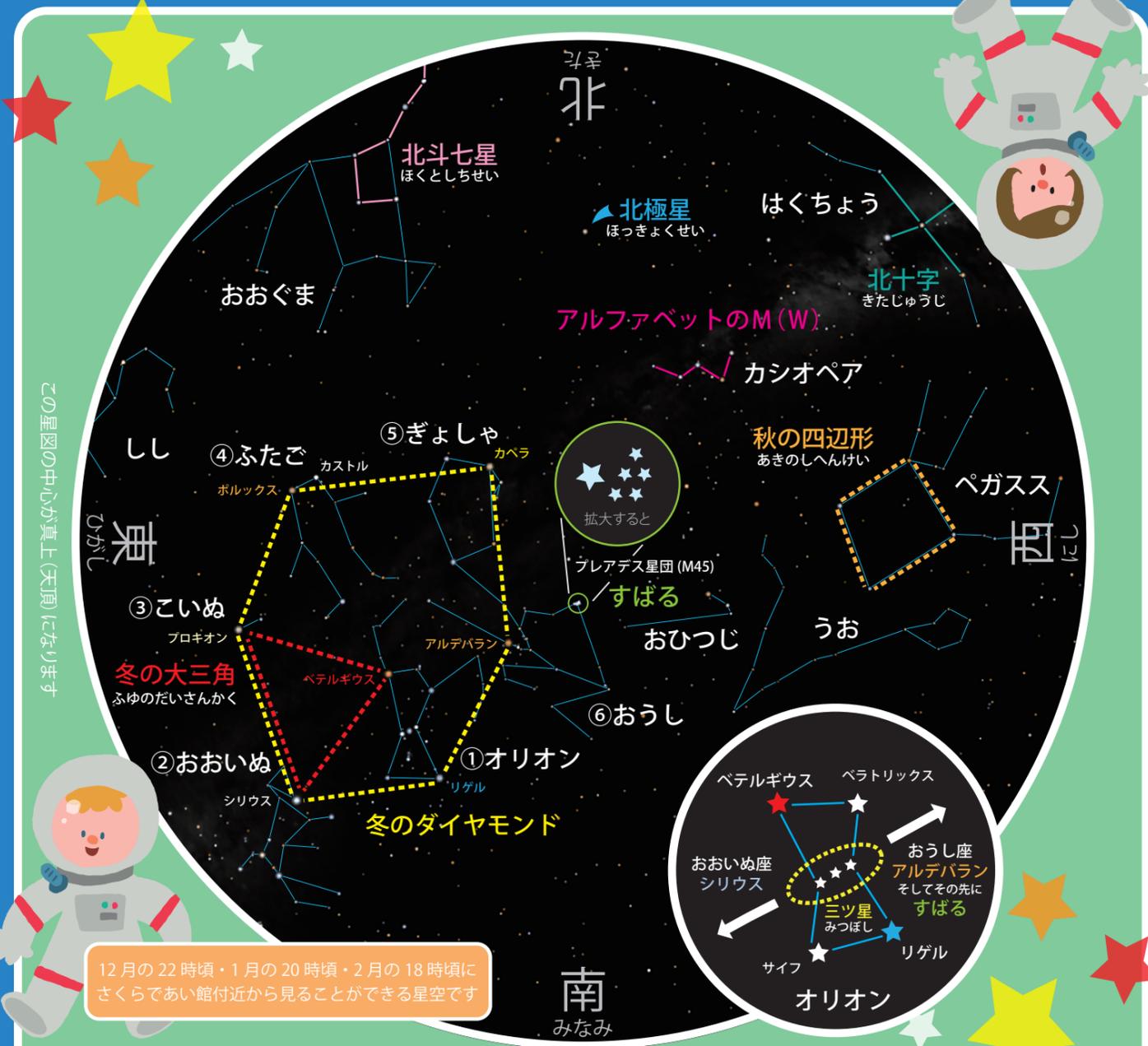


さくらであい館 * 冬の星空観察シート

2021年12月~2022年3月版



この星図の中心が真上(天頂)になります

12月の22時頃・1月の20時頃・2月の18時頃にさくらであい館付近から見る事ができる星空です

見たい方角を向き少し見上げるようにして、この図と実際の方角を合わせると星座のだいたいの位置がわかります

みんなで長生きしよう!

といっても健康体操や健康グッズのお話ではありません



りゅうこつ座の1等星カノーブス。シリウスに次いで全天で2番目に明るい星なのですが京都では南の地平線すれすれにしか姿を見ることはできません。このカノーブスをもし見ることができれば長生きできると伝えられています。夜の早めの時間に南中する2月頃は観察のチャンスです。シリウスを目印にぜひチャレンジしてみてください!



この冬、見逃せない天文トピックス

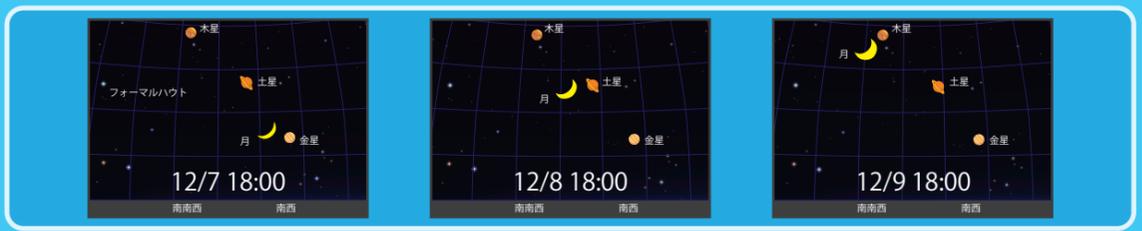
- 12月初旬の日の入り後 南西の空 金星が最大光度(-4.7等級)
- 12/13の夜から14の明け方 ふたご座流星群が極大(期待度◎)
- 12/14の夜から15の明け方 ふたご座流星群が極大(期待度◎)
- 1/3の夜から4の明け方 しぶんぎ座流星群が極大

流星群はどこで観察すればいいの?

- ・明かりが少なくなるべく暗い場所
- ・視界を遮るものがなく空を広く見渡せる場所
- ・安全にゆっくり落ち着いて見られる場所

金星・土星・木星、そして月が競演!

地球の兄弟星とも呼ばれる「金星」。12月に入ると光度はマイナス4.7等(1等星の100倍以上の明るさ)に達し「宵の明星」として、日の入り後の南西の空に明るく輝きます。空が暗くなると西側(右側)から金星・土星・木星の順に均等に並んでいる様子を見ることができます。そして7日から9日の3日間は3つの惑星にスリムな月が加わり夜空を一段と賑わせてくれます。



※星図の作成にはステラナビゲータを用いています。惑星と月の大きさは誇張して描かれています。

ミッション 冬の星座のたどりかたをおぼえよう!

まず最初に**①オリオン座**を見つけます。オリオン座を見つけたら、そこから冬の星々をたどっていきましょう。オリオンの三ツ星を使って次の明るい星を探します。三ツ星をその並びに沿って左側にたどっていくととても明るい星が見つかります。全天で一番明るい恒星、**②おおいぬ座**のシリウスです。シリウスとオリオンのベテルギウスを結んだ線を正三角形の底辺としてその左側に三角形の頂点となる星を探します。その星が**③こいぬ座**のプロキオンです。シリウス・プロキオン・ベテルギウスと3つの星をつないで出来上がった三角形が「冬の大きな三角」です。きれいな正三角形ですね。次に「冬のダイヤモンド」を見つけましょう。亀甲形の六角形をイメージしてください。今度はオリオン座のリゲルからスタートします。リゲル、次に冬の大きな三角にも登場したシリウス、そしてプロキオンとつなぎ、そのまま視線をその先に進めると明るい星が2つ見つかります。**④ふたご座**のカストルとポルックスです。右側が双子のお兄さんカストルで2等星。左側が1等星、弟のポルックスです。ポルックスはオレンジ色。カストルは白色と星の色でも識別できます。日本では古くからこの双子星を金星・銀星と呼んでいます。プロキオン、そしてポルックスとつないで、次は六角形の頂点に位置する**⑤ぎょしゃ座**のカペラを探します。黄色く輝いています。そして六角形の最後の星、**⑥おうし座**のアルデバランをつないでください。アルデバランを見つけづらい場合はオリオンの三ツ星をシリウスの時とは逆の方向、右側にたどります。そしてオレンジ色の明るい星が見つければその星がアルデバランです。



【お問い合わせ】
淀川三川合流域 さくらであい館

〒614-8307 京都府八幡市八幡在応寺 TEL 075-633-5120 FAX 075-950-2953
※利用時間：さくらであい館(館内・駐車場)、背割堤地区駐車場共に17時まで

